

高齢者最多 3625万人

人口の29.3% 就業914万人

総務省推計

総務省は15日、65歳以上の高齢者の推計人口を発表した。15日時点の高齢者は前年比2万人増の3625万人、総人口に占める割合も同0.2ポイント上昇して29.3%となり、いずれも過去最高を記録した。昨年の高齢者の就業者数も914万人と20年連続で増加し、過去最多を更新した。

572万人で男性全体に占める割合は26.1%、女性は男性より48.1万人多い2053万人で、女性全体の32.3%だった。

世代別で見ると、70歳以上は2898万人と総人口の23.4%、80歳以上は1290万人で同10.4%となった。高齢者の割合は1

950年以降年々高まっており、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、第2次ベビーブーム期（1971〜74年）に生まれた世代が65歳以上となる2040年には34.8%に達すると見込まれている。

国連の推計によると、日本の高齢者の割合（29.3

）は人口10万人以上の国・地域で最も高く、主要国ではイタリアが24.6%、ドイツは23.2%などと続いている。

一方、労働力調査を基にした総務省の集計では、昨年の高齢者の就業率は前年と同じ25.2%で、高齢者の4人に1人が働いていることになる。15歳以上の就業者全体に占める割合は12.5%で、およそ7人に1人が高齢者となる計算だ。

産業別に見ると「卸売業、小売業」が132万人と最多。「医療、福祉」分野は107万人で、10年前の約2.4倍に増加した。

同省が16日の敬老の日に合わせて発表した。高齢者の男女別内訳は、男性が1

